

たはら

令和6年4月8日



田原小 HP

青空に ピンクがキラキラ 春爛漫



校庭の満開の桜に包まれ、令和6年度の学校生活が始まりました。5日の入学式では、新1年生33名が入学し、田原っ子は220名となりました。

今年度も保護者の皆様とともに、子供たちのたくさんの「いい顔」を発見していきたいと思えます。御支援・御協力をお願いいたします。

複数教員で子ども理解を進める「チーム担任制」を進めていきます！

<チーム担任制は「流体」組織を作るための一方策>

昨年度末の入学説明および懇談会の中で、「複数教員で子ども理解を進める仕組みづくりを整えたい」と話しました。1人の先生がほとんどの時間を同じ学級の子どもたちとともに生活し学習を進めるという形態を「学級担任制」と呼ぶならば、このことに加え、**子どもたちが1日の学校生活の中で、より多くの先生と学習を進める、違う学級や学年の子供とともに学習や生活を進められる「チーム担任制」を取り入れていきます。**

<チーム担任制で目指すものは何か>

子どもたちにとって学習や生活がより魅力的なものになり、**子どもたちの「いい顔」が増える**ことに尽きます。

学習面では、教員の得意教科を中心に子どもたちに授業を展開することで、子どもたちもよりワクワクとした気持ちで「分かりたい」「できるようになりたい」という気持ちを満足させることができると考えます。

生活面では、いろいろな先生が学級の中に入ってくることで、子どもたちにも「見られている」という感覚を持ってもらい、自分たち自身でより良い関係を築こうという意識を持ってほしいと考えます。

<子どもたちや保護者の皆様の不安をなくすために>

どれだけ崇高な理想を掲げようとも、そのことで子どもたちや保護者の皆様の不安感が増すのは論外です。現在のところ、以下の点を中心に全職員で検討しています。

(1) 職員間でチーム内の子どもをどれだけ共有できるか

一人の子どもを多面的に理解することができて初めて成功したと言えます。そのために、いかに職員が知り得たことを共有できるかが重要になります。教員が教室を移動する際や放課後など短い時間で子どもの様子を共有する機会を設けることを考えています。

(2) 職員が子ども一人ひとりのことを夢をもって語れるか

朝の会や帰りの会、給食配膳、係活動は基本的にどの学級もそろえて学年が上がると教師の指導は必要ないようにしておきたいと考えています。さらに学級のまとまりを論じるのではなく、子どもの些細な言動の変化を論じあえる集団へと意識を変えていく必要性を感じています。

(3) 子どもたちに安心感を与えられるか

どの程度担任を交代させるのか、どの程度集団をばらすのかなどは、チーム内で子どもの実情を見ながら決めていくこととしています。したがって、詳細については後日学年だより等で該当学年の保護者の皆様にお知らせをすることになります。

(4) 子どもたちだけでまとまりのある集団を作れるように

年度当初には係活動をはじめ、集団作りにかかるガイダンスを充実させます。年間を通じてピアサポート・トレーニングを行うことで、上手な伝え方や良い聴き方などの基本的なコミュニケーションスキルに加え、問題解決や対立解消のスキルも身に付けるようにしていきます。さらに、日常生活において子ども同士のトラブルが生じたときには3ステップで聴き、本当はどうすればよかったのかを教師も一緒に考えながら望ましい行動様式を身に付けさせるようにしていきます。

(5) 保護者は誰に相談するのか

いろいろな先生が学級に入るとなると、保護者の皆様の中には「いったい誰に相談してよいのか分からない」と不安に思われる方もいるでしょう。4月当初に発表した学級担任を窓口にしていただきなんでも相談してください。もちろん、チーム内職員であれば学級担任以外の教員に相談していただいてもけっこうです。

4月当初は、これまで通り学級担任のもと、学習や生活に関する諸々のことについてガイダンスを行っていく必要があります。したがって、先述のとおり、チーム職員が時期を見ながら段階をおって進めていきたいと考えています。御理解・御協力をよろしくお願いいたします。



